

(別紙 2)

## 第 5 回花き産業振興方針検討会議事概要

### 1 日時

平成 17 年 3 月 14 日 (月) 14:00 ~ 16:00

### 2 場所

生産局第 1 会議室

### 3 出席者

【検討会委員】別添のとおり。ただし、石森委員は欠席

【事務局】染大臣官房審議官(生産局)、吉田花き対策室長他

### 4 議事概要

花き対策室長から、「資料 5 花き産業振興方針(案)」及び資料 6 「花き産業振興方針(案)の概要」について説明。その後、以下の意見交換。

(1) 資料 5 新しい花き産業振興方針(案)について

ア「我が国の花きの位置付け」について

【西岸委員】2 頁の と がダブる。 と はまとめたほうがよい。

【安藤委員】 は、まちづくりと花見文化が混じっている。

【須磨委員】フラワーリズムは、花見文化。

【須磨委員】「花は季節を楽しむ」という面があるので 2 頁の第一段落にこのことを書く方がよいのではないか。

【西岸委員】2 頁の 19 行目「より知的な」という表現ではなく、「新しいものを生み出すような楽しみ方ができますよ」というようなことを書けないか。

【須磨委員】「知的な花の楽しみ方が一層活発になる」と断言しているが、断言の根拠が不明なので、 をすることで、今後の人々の楽しみが広がる可能性が大きい。というような表現に変えた言い方をした方がよい。

イ「花き産業振興のための基本的な方針と具体的取組」について

【近藤委員】(「花き産業振興のための基本的な方針と具体的取組」に) 具体的取組と書いてあるが、行政は何をやって、生産者や種苗会社などは何をやるとかが明確でない。

【腰岡座長】花き産業振興方針は総論として、各業界の指針となることを期待してとりまとめられている。それぞれが何をできるかということは、これを基にして、それぞれが具体的に考えていくものではないか。

【近藤委員】総論としてよくまとまっている。しかし、生産から流通まで横断的な記述だけで、誰が何をやるかという縦のシナリオが見えてこない。

【腰岡座長】縦の部分は、それぞれの関係者にやってもらうことになる。

【吉田室長】骨子(案)とは構成が少し変わっているが、分量の制約があり、課題ごとに取組をまとめるように整理した。

【腰岡座長】誰が何をやるかという縦の部分は、それぞれの分野で出来ることを各関係者

が推進していくことになるのでは。JFコードも国が始めた当初は何かという感じだったが、関係者の努力で花き統一コードとしてメジャーになった。

【西岸委員】実際には切り花、バラ、鉢物とか例えばバラ部会など、各々の分野ごとに、実際の取り組みを推進していくことになる。ここですべてを書き入れるのは、花きの場合生産者により規模や生産額も違うし、業界も多いので難しいと思う。

【須磨委員】花き産業振興方針を受けたアクションプログラムを作るのか。

【吉田室長】基本的には、それぞれの関係者が決めていくものと考えている。花き産業振興方針はそのための基本的な考え方を示したものとなることを期待している。各業界が何をしていくかは各業界主導で決めていくことになると思う。

【腰岡座長】そういう意味では、それぞれの業界が具体的な行動を検討していくためのものとして、目次が一つの目安になるのではないか。

【須磨委員】(「1 ホームユース需要に対応した生産・販売の推進」の)4頁の9行目、「ホームユース用切り花需要が大きく拡大する余地がある」とあるが、「切り花需要」に限定せずに「花き需要」という文言にすべき。

【西岸委員】(「1 ホームユース需要に対応した生産・販売の推進」で)ホームユース需要を論じているが、ホームユース需要の中にはパーソナルギフトがある。もっとここに書き込んでもいいのではないか。業務用などに使われるギフトではない、もっと気軽なギフトがこれから大事になるのではないか。贈答とホームユースとは別物のように全体のトーンがなっている。菓子や本を贈ったりはしているが、花はどうか。ヨーロッパでは日常的に花を飾る習慣とあわせて贈る習慣がある。

【腰岡座長】贈答というと業務用贈答というイメージがある。

【西岸委員】自分で買って自分で使うものをホームユース用と整理した記述になっている。個人的な贈り物もホームユース需要ではないか。花を飾ることとともに贈る習慣を広めたい。

【瀧 委員】業界全体のPRとして、そういうことがやれたらいいと思う。そんな文章がどこかに書けないか。

【須磨委員】メディアの人間としては、花き関係者はPRが下手だと思う。展示会では花がすばらしいということ以外のPRをしていない。これからは、花をどう使ったら楽しいか、また花で個性豊かなプレゼントを演出する方法など、心をくすぐる提案をするべき。

「1の(3)ホームユース用花きの提案・販売」に「気軽に花を贈る」の文言を入れてもいいのでは。

【腰岡座長】あるいはもう少し前の(「1. ホームユース需要に対応した生産・販売の推進」の)本文のところに入れられないか。

【安藤委員】業務用のギフトとはどのようなものがあるか。

【中村委員】大手企業などで、社員及び社員の家族の誕生日に花を贈るなどで、まとまった量が出ている例がある。

【栗原委員】日本の文化に、お菓子代わりに花を持って行くというような花を贈る習慣がない。新しい文化の提案として、花を贈って生活を豊かにしていくとか、物質中心から精神的な充実として花を贈る習慣を育てたい。

【安藤委員】この花き産業振興方針（案）では、短茎多収が色濃く出ているが、これまで生産者が良品多収を目指してやってきた中で、生産者は品質について今後何を目指したら良いのか見えない。従来は80cmについて競ってきた。品質を入れておかないと競うものがない。

【磯村委員】65cmで、単価、納期、鮮度を競っていくということか。国産は、納期と鮮度が優位性になる。

【近藤委員】儲かる条件としては何になるか。

【西岸委員】従来は「競りで、高値が付くように、よりいいものを作り単価を高くしていく。」ということやってきたが、これからは、それだけではなく「生産コストを下げて収益性を高める」という取組が必要である。

【小川委員】小さく作るということは、生産コストの面以外、流通の面でも積載効率が上がるなど、良い面がある。サプライチェーン全体で最適化が図られる。

【宇田委員】（「2 ブランド化等に向けた生産・販売の推進」の）5頁の18行目「キク、バラ、カーネーション等の国内生産の多い品目で輸入が拡大傾向にあることから、・・・生産品目の在り方についても中長期的に検討していく・・・」とあるが、これは、国内生産の品目を転換しましょうと読んでよいのか。

【吉田室長】品目を転換していくべきだとは言っていない。このように書いた問題意識としては、輸入が増えているので中長期的には論点としてあることの確認ということである。

【宇田委員】国内生産で、例えばバラが崩壊すると他の品目も崩壊していく。カーネーション、キクもだめになるとすると、これらは10億本の生産量があるので、これらに代われるだけの生産量を見込める品目は無いのではないか。

【安藤委員】「生産品目の在り方」を、「国際競争力の強化の在り方」に変えたらよい。

【瀧 委員】間違っても、農林水産省が、キク、バラ、カーネーションの生産を止めることを誘導していると受け取られないようにすべき。

【宇田委員】1970年代、アメリカカリフォルニア州の花き生産は世界一だった。しかし、南米からの輸入にカーネーションを明け渡したら、バラも駄目になってしまった。さらに、鉢もの、苗ものにも影響があった。輸入に明け渡してしまうのではなく、国内生産を維持するためにどう輸入に対抗していくかを整理すべき。

【瀧 委員】生産者の国内での生産意欲がなくならないような方針にして欲しい。

【安藤委員】（「2の（1）オリジナル品種等の活用」の）5頁の下から5行目に、「自治体の研究機関等の支援を受けつつ、生産出荷者は・・・オリジナル品種作出の推進」とあるが、「研究機関」の次に「種苗会社」も入れてもよいのではないか。種苗会社には、国際競争力が見込めないとやりたくてもやれないものも多いので、こうしたことが考えられる。

【安藤委員】（「4の（1）新品種の開発等」の）7頁の下から14行目に「花きの需要を拡大するためには、・・・新品種や新品目の開発」と書かれているが「新たな消費ニーズを創生するような新品種や新品目の開発」と書いて大丈夫ではないか。また、全国レベルの品種コンテストだけではなく、福岡のブルーリボンなど地域レベルのものも書き入れて欲しい。

【飯塚委員】新品種の開発について、種苗会社は採算に合わないものの育種はやらなくな

っている。その意味で個人育種家の役割は重要になっている。育成者権の保護が一層進められることが重要。

【安藤委員】(「4の(1)新品種の開発等」の)二段落目に書かれている花き統一コードについては、その下の「4の(2)販売チャネル・情報発信の充実」の中に入れてほうがよい。

【中村委員】物日を長くするか、母の日ウイークにするなどフェアの提唱をして、物日前の荷の集中を避ける提案を花き産業振興方針に盛り込めないか。

【安藤委員】農林水産省のなかで、小売対策を一番に出したのは花だと思うが、もう一手を出して、文化まで手を出して欲しい。今回の方針でも触れられているが、花き文化の普及が大切である。文化無くして産業はない。

ウ「 担い手の育成・確保」について

【腰岡座長】第1表に超低コストハウスという言葉が出てきている。新しい用語なので説明を付したらどうか。

【西岸委員】第1表の経営展望のところ、粗収益は高いが所得が低い印象を与える。もう少し丁寧に書いたらどうか。家庭内労働、雇用に関するデータについて備考に注書きでもできないか。

エ「 需要及び生産見通し」について

【小川委員】生産者から、第2表の見通しが非常に甘いと言われた場合どうディフェンスするか。

第2表の生産見通しは8パーセントとなっているが、輸入関係の見通しが客観的に言うと甘いと思う。

【染審議官】他の品目もそうだが、施策を入れてここまで持って行くという努力を国、関係者を挙げてやっていこうという最大限のところを書いた共通目標というような意味合いもある。

アメリカ、オランダは、資本と技術が海外に出て行って、国内生産されていたものが海外で生産され輸入されるようになり、国内生産が衰退した。日本と生産構造も違っていると考えている。基本的には花も自給率を下げない方向でやっている。

【小川委員】花きについては食料と違う。花きについては世界的に見て、輸入に対して国内の農業者をうまく守れた事例は少ない。この花き産業振興方針の輸入に対する見通しは甘く、危機感が反映されていない。

【染審議官】本文では国際競争力を確保していくということをさらに書いた方がよいと考えている。

【小川委員】業界の方からはもう少し具体性のあることを求められるのではないか。

(2) 資料6 新しい花き産業振興方針(案)の概要について

【須磨委員】基本方針を細かくまで丁寧に読まなくて、資料6の概要の文言だけを見て判断されてしまう方が多いと思う。

基本方針をよく読めば、「品質管理」が、低い温度で輸送するというだけでないことがわかるが、概要だけをみると「低温」だけという印象を持たれてしまうと思う。温度調整機能付きのトラックコンテナや定温倉庫、台車まで取り組むということであれば、概要だけ見ても、「低温輸送」だけでないということがわかるように書いた方が良いと思う。

「需要拡大の推進」の文章表現、ネットワークの強化の促進など文言を具体的に。

「国産花きの輸出」の文章表現、課題克服のうえ、輸出拡大を推進していくなどの文言とすべき。

概要をみて、花き産業振興方針を読ませるような文言に整理すべき。

【近藤委員】資料6の一段目の「バラは現在80cm主流。一般家庭向け切り花は60 - 65cm以下で十分」と四段目の「切り花購入額 H15 11,036円/世帯、・・・」は、何を根拠に書いているのか。「バラは、一般家庭向け切り花は60 - 65cm以下で十分」は問題ではないか。また、購入額を切り花だけ記述するのか。

### (3) 花き産業振興方針策定を受けて

【腰岡座長】それぞれの立場で、花き産業振興方針を普及させていくということが大切である。花き研究所は、独法研究機関であり、近々定められる農林水産研究基本計画においても花き産業振興方針の裏付けをしようということで、三つの内容を含めている。新しい育種技術の開発、新たな品質保持技術の開発、短茎多収にも資する開花調節技術の開発である。それぞれの立場から本方針の普及に協力をお願いしたい。

【西岸委員】花き産業振興方針にある日持ちシステムを、業界で協力して立ち上げたい。また、統一的な品種コンテストの検討を進めている。

【渡辺委員】研修会などの機会に、基本方針を伝えることが大切。全体的な流れとして基本方針が分かれば、それを頭に置きながら、それぞれが考えて前に進んで行く。

【磯村委員】花き流通は、FTA（自由貿易協定）の前の基礎づくりの段階にあると考えている。本方針はいいところが出ていると思う。卸売会社にとっては、新たなチャンス到来と考えて、何件かをいつまでに実現していくと決めてやっていくという使い方を市場としてはやっていきたい。そのように市場協会で言いたい。

### (4) 花き産業振興方針案の今後の取り扱い

本検討会で出された意見を踏まえ、座長が事務局と相談しつつ、最終案をとりまとめ、本検討会の成果とすることとなった。

(別添)

花き産業振興方針検討会委員（敬称略、五十音順）

氏名	所属・役職
あんどうとしお 安藤 敏夫	千葉大学園芸学部教授
いづかいさお 飯塚 勲	(社)日本種苗協会花き部会会長代理
いしもり きよえ 石森 紀代江	イオン(株)ガーデニング・グリナリー商品部 カテゴリーマネージャー
いそむらのぶお 磯村 信夫	(社)日本花き卸売市場協会常務理事
うだ あきら 宇田 明	兵庫県立農林水産技術総合センター園芸部研究主 幹
おがわ こうすけ 小川 孔輔	法政大学経営学部(経営大学院)教授
くりはら ひろゆき 栗原 浩之	(社)日本生花通信配達協会理事
こしおか まさじ 腰岡 政二	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 花き研究所所長
こんどう たいじ 近藤 泰次	大井川農業協同組合花卉センター長
すま かづえ 須磨 佳津江	キャスター
たき ぶんしん 瀧 文臣	(社)日本花き生産協会副会長
なかむら いちよ 中村 一葉	(有)一葉
にしぎし よしお 西岸 芳雄	(財)日本花普及センター専務理事
わたなべ やすひろ 渡辺 康宏	(社)日本花き生産協会 輪ぎく部会長